

大きなイベントを抱えていたことで久しぶりの発行になりました。

既に大震災から2年が経過しました。現地では今までの生活とはほど遠い不自由な生活をしながらも前向きに頑張っていますが家族や仕事等の将来を考えると不安になることが多く、辛い思いをしている人がほとんどです。最近では社会の関心が薄れボランティアが減ったことなど風化が進んでいるからだと思いますがボランティアに行くと被災した皆様からのとても熱い歓迎を受けます。これから現地の様子や生の声を紹介します。一人ひとりが現地の皆様に思いを馳せ、応援している気持ちを伝えて欲しいと願っています。

南相馬市立鹿島保育園にミネラル水を届けてきました

平成25年1月7日鹿島保育園にダークさんとミネラル水約500Lを届けてきました。八巻美喜子園長によると水道水が安全になったので、ミネラル水はなるべく受け取らないようにと市長から言われているそうです。しかし、給食にはミネラル水を使うことを保護者と約束しています。そのような背景があり水はとても喜んでくれました。ちなみにこの地区のスーパーで一番売れているものはミネラル水だそうです。

この水はブリジストン栃木工場の災害時用備蓄水で更新時期にあったものを譲り受けたものです。

この保育園は第一原発から35Kmの場所にあり、給食の食材は全品放射線量を毎日計測して使用していました。外遊びも毎日30分以内とするなどとても大変な管理をすることにより再開園につなげたそうです。

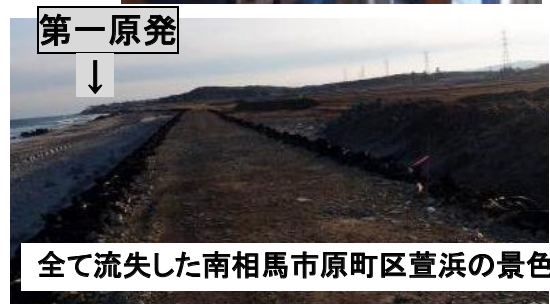
南相馬市は震災と津波と放射能被害の三重苦に悩まされており、さらに避難指定地区原発30Kmで2分されており行政上も困難な状況になっています。また鹿島地区は放射線量の関係で捜査開始が平成24年4月になってやっと認められたため「ボランティアチーム復興浜団」は浜で清掃しながら遺体捜査活動と家屋の片付け作業を行っていました。

原発30Km以内は避難地区のため現在も手つかずのままです。立ち入り禁止の看板のある原発30Kmの地点に立つとやり切れない気持ちになります。絶対風化させてはならないと強く思いながら引き返してきました。

南相馬市に向かう途中の飯館村で愛犬に毎日朝夕、食事を食べさせに来ている庄司さんにミネラル水をお届けしました。避難先の福島市の住居では犬が飼えないため放射線量の高い飯館村の自宅に愛犬を残しているのです。帰りに同じ道を通った飯館村は人が住んでいないため真っ暗で将にゴーストタウンでした。さらに寂しい気持ちになりました。



南相馬市立鹿島保育園児達と



愛犬のため毎日通っている庄司さん
～途中の飯館村で

ガールスカウトの子どもたち有志の心育むボランティア活動

ガールスカウト栃木県連盟の子どもたちの心をボランティア活動により育もうと願って計画した「ガールスカウト大震災支援プロジェクト活動」を龍 JIN がお手伝いしました。昨年 10 月にガールスカウト指導者研修会を被災地の門脇地区及び牡鹿地区で実施した際、子どもたちを積極的に参加させることをガールスカウトとして決めましたが、その第一弾として実施したものです。

平成 25 年 1 月 20 日(日)、ガールスカウト 11 名、大人 19 名合計 30 名で石巻市門脇地区及び牡鹿地区を目指して 4 時 20 分に栃木を出発しました。

今回はこれからの活動を継続して実施するための調整業務が主な目的です。

特に津波被害が大きく何も無くなってしまった門脇地区で孤軍奮闘している焼きそば屋「味平」店主尾形勝寿さんの希望である「ありがとうハウス」の建設支援と門脇地区に花をいっぱい咲かせる活動支援が当面の大きな活動目標となりました。

尾形勝寿さんとこれらの支援活動について話合った結果、「ありがとうハウス」建設計画についてはガールスカウトや龍 JIN など他の団体と共同してトイレ設置や掲示板設置等、協力できるものは一つでも多くお手伝いすることと、花いっぱいの花壇づくり計画は多くの人に参加を呼び掛けて楽しく実施していくことなどを約束しました。

「尾形さんの熱い思いをみんなで叶えよう」とガールスカウト藤田連盟長が帰りのバスの中で熱く話されたことが頼もしかったです。

*「ありがとうハウス」とは

「がんばろう！石巻」の看板と慰霊塔のある門脇にたくさんの人が手を合わせに来てくれますが、尾形さんはトイレも休憩所もないことに心を痛めています。今回の大震災を決して風化させたくない思いと感謝の気持ちを込めて、この辛さを乗り越えようと頑張っていることを多くの人に聞いてもらうハウス(部屋)建設を考えています。また、門脇地区被災者同士の情報交換センター機能も併せ持つ基地としても考えています。

しかし、この地区での建屋建設は町の将来像も決まっていないことに加えインフラなどの上下水道も破壊されたままなのでトイレ設置だけでも容易でないのです。

例え簡易の仮の部屋でも「ありがとうハウス」建設が尾形さんの夢なのです。



「ありがとうハウス」実現を願ってガッツポーズ



取り壊す予定の門脇小学校



常に一生懸命の説明に頭が下がります



「がんばろう！石巻」の看板の前で説明する尾形さん

今後の龍 JIN の活動を見据える調査活動

3月17日龍 JIN 主催の「震災2年 今後の災害ボランティアを考える集い」の現地紹介ビデオ撮りを兼ねて今後の龍 JIN 活動の方向性を見据える調査活動を実施しました。

参加者9名、車2台で平成25年1月26(土)朝4時に1泊2日の予定で出発。

未だいちご用ビニールハウス内の小石除去や田んぼの復活作業等の力仕事を実施している宮城県山元町やまもと復興応援センターに行き担当者に話を伺いました。

私たちがセンターに着いた時、大型バスで神奈川県から0泊3日の予定でボランティア活動に来たグループと一緒にいました。いろいろな情報交換をしましたが、大型ボランティアバスと遭遇するのはかなり久しぶりのことでした。4月以降も大型バスレベルの依頼があれば高校生中心の活動を計画しようと思いました。



やまもと復興応援センターの活動紹介ボード

昼食は石巻市万石浦近くにオープンした牡蠣小屋で新鮮な牡蠣とホタテを焼いて食べました。福岡県の団体が支援してできたテント小屋で、とてもおいしく少しは経済支援に貢献できたかなと自己満足しながら次の予定地石巻市渡波地区のNPO法人It's Not Just Mudに向かいました。



牡蠣小屋で新鮮な海の幸を堪能

It's Not Just Mudは震災直後から外国人ボランティア活動の基地として被災地支援活動を行っており今も継続して活動しているグループです。有名な石巻ボランティアハウスの橋本信子さんを支援しているグループの一つです。(詳細はセブン&アイ出版社「石巻ボランティアハウス橋本ごはん」を参照してください)

現在も地道に漁業支援や仮設住民のケア活動など心寄り沿う活動を行っています。責任者の石川雅枝さんから話を伺いましたが、ワカメやホヤ養殖などの仕事で牡鹿の漁師の方は人手が足りず多くの浜で困っているので助けて欲しいと話されました。

龍 JIN としてはその都度、継続して対応しようと思いを話しました。

その後、今まで継続交流してきた荻浜に立ち寄り復興に寄せる思いを荻浜漁協渡辺支部長に話していただきました。3月17日震災2年を考える集いの場で「日はまた昇る 以前のようにみんなが笑顔で助け合いながら漁ができる荻浜に一日でも早く戻ることを自分達の夢として頑張っていること」を応援してくれている皆さんに伝えて欲しいと熱く話されました。



その後、鮎川地区ボランティアセンター長などの 荻浜漁協の渡辺支部長のメッセージを聞く皆様と今後のボランティア活動についての希望などを聞いた後、宿泊場所である鮎川浜黒崎地区の民宿泰平荘に到着し長い1日の調査活動を終了しました。

次の朝、起きてびっくりしました。30cm以上の大雪なのです。それでも南三陸町のボランティアセンターまで行くことにしました。

途中の女川は更地の中に転倒したままの建物が転がったままでした。また、かさ上げ予定の道路の高さ表示が異様に高く感じましたが、これが津波被害の現実なのです。



女川地区 ～更地の中で転倒したままの建物

南三陸町に向かう途中、大川小学校に立ち寄り手を合わせましたが、雪だけが以前と異なるだけで全く景色は同じでした。南三陸町の景色もまた以前と同じでしたが撤去工事は確実に着手しているところが多く更地までは進むと思われるが、その後のイメージが描けないのが辛いです。



大川小学校



JR 気仙沼線にも重機が入っていた



南三陸町は撤去工事もこれから

雪の中やっと南三陸町のボランティアセンターに到着しました。センター長である猪又社協総務課長さんはかなりの熱血漢で町の復興が終結するまではボランティアの皆さんにお手伝いいただくことが山のようにあるのでこれからも協力して欲しいと話されました。ほとんどの行政区のボランティアセンターが窓口機能を閉めてしまう中、このような人材がいる南三陸町を頼もしく思いました。

少し遠いですが、南三陸町でのボランティア活動を計画すべきと思いました。今回の調査活動を通して龍 JIN として以下のような方向性を確認しました。

◇今年度の龍 JIN 活動の方向性について

- ・心寄り添う活動を継続する
- ・活動地区は原則として石巻及び牡鹿地区を中心に継続する
- ・南相馬市や山元町等はその都度依頼に基づき参加する
- ・牡鹿 VC 遠藤さん支援については依頼に基づき参加する⇒龍 JIN 窓口石川さん
- ・渡波地区の NPO 法人 It's Not Just Mud の漁業支援活動もその都度依頼に基づき参加する
- ・南三陸町は当面ボランティア募集を継続するので依頼内容に応じて参加する

終わりに

既に震災2年の節目を迎えました。3月17日に龍 JIN として被災地からゲストをお迎えし「震災から2年 今後の災害ボランティアを考える集い」を実施しました。

この集いの様子や準備活動の内容を次号で紹介します。一部新聞情報を先行して皆様に送付いたしました但次号第17号も楽しみにお待ちしておりますと幸いです。